

令和 3 年度厚生労働行政推進調査事業費
 (地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)
 ASEAN における活動的で健康的な高齢期の推進に関する研究 (20BA2002)
 分担研究報告書

「改訂版 HAAI—領域・指標の吟味と算定方法」

研究分担者 林玲子 (国立社会保障・人口問題研究所 副所長)
 中川雅貴 (国立社会保障・人口問題研究所 第3室長)
 佐々木由理 (国立保健医療科学院 主任研究官)
 菖蒲川由郷 (新潟大学 新潟大学大学院医歯学総合研究科/
 十日町いきいきエイジング講座 特任教授)
 荒井秀典 (国立長寿医療研究センター 理事長)
 研究代表者 曾根智史 (国立保健医療科学院 院長)
 研究協力者 綿引信義 (国立保健医療科学院 客員研究員)

研究要旨

2017年に設定された健康で活動的な高齢化指標を基に、昨年度方針を決めた改訂版「健康で活動的な高齢化指標 (HAAI)」の構成を検討し、6領域の45指標、および算定方法を設定した。さらに日本、インドネシア、タイ、ミャンマーについて、指標の収集を行い、領域別に指標を視覚化した。日本においてすら得られない指標もあり、今後さらなる指標の精査および取舍選択が必要となるが、指標の所在・定義等を確認する作業自体が高齢者施策の充実につながる可能性もあり、今後は各国毎に検討チームを構成し、指標の収集・吟味を行うことが有用であると考えられる。

A. 研究目的

本研究は、2020年8月の世界保健総会、12月の国連総会で採択された、国連「健康な高齢化の10年2021-2030 (United Nations Decade of Healthy Ageing (2021-2030))」の理念に応じ、ASEAN+3諸国における健康で活動的な高齢化 (Healthy and Active Ageing) の指標化を通じて比較分析および政策提言を行うことを目的としている。第1年度である昨年令和2年度は、既存の活動的な高齢化に関する指標について、ヒアリング等を通じて情報収集し(林・中川 2021)、健康で活動的な高齢化指標 (Healthy and Active

Ageing Index、以下「改訂版 HAAI」とする)の基本方針を検討した(佐々木・曾根ほか 2021)。今年度は、その方針に基づき、具体的な指標構成(領域、指標)および算定方法を検討した。

B. 研究方法

2017年に厚生労働省とASEAN各国、アジア開発銀行により提案された ASEAN-Japan Healthy & Active Ageing Indicators 2017 (以下「2017年版」とする、別表3)をたたき台とし、令和2年度で情報収集を行ったアジアにおける既存アクティブエイジン

グ指標である、New Asian Active Ageing Index (Zaidi and Um 2019)、Global AgeWatch Index (HelpAge International 2015) を参照しつつ、国連健康的な高齢化 10 ヶ年行動計画 (WHO 2020) の SDG 指標を用いるという方針を踏襲し、領域の整理と指標の設定を行った。さらに、日本、インドネシア、タイ、ミャンマーについて、実際に指標の収集を試みた。ミャンマーの指標は、公式統計および、本プロジェクトで実施されたミャンマー高齢者調査の結果(菖蒲川 2021)も用いた。得られた指標データより、改訂版 HAAI の算定方法および視覚化手法を検討した。

(倫理面への配慮)

今年度は公表されているデータを用いて研究を行った。

C. 研究結果

改訂版 HAAI は、別表 1 の通り、6 領域領域の 45 指標を設定し、日本、インドネシア、タイ、ミャンマーについて指標の有無を確認した。この作業により得られた知見を領域・指標別に以下に述べる。

1. 領域の構成

改訂版 HAAI の第 1 領域は、2017 年版における、1.National/Local Government Policy および 6.Development of Social Statistics を統合し Policy & Statistics とした。この領域内容は政策や統計など定性的な情報を含むものであるが、政策の有無は、国連健康的な高齢化 10 ヶ年行動計画にも基本情報として挙げられており、既存のアクティブエイ

ジング指数には含まれていないが、改訂版 HAAI では一つの領域として取り上げることとした。

改訂版 HAAI の第 2 領域は、Income & Livelihood Security とした。これは、2017 年版の 2.Income Security と 3.Social Capital of the Community の雇用関係等を含むものである。この領域のすべての指標は、SDG 指標でもある。

改訂版 HAAI の第 3 領域は、Health & Quality of Life とし、2017 年版の 4.Health and Long-term Care Service と、5.Health Outcome を整理・統合した。2017 年版の 4.Health and Long-term Care Service は、NCD の政策の有無、といった項目もあり、それらは改訂版第 1 領域である Policy & Statistics に含めた。

改訂版 HAAI 第 4 領域の Social Capital は、2017 年版の 3.Social Capital of the Community 同様重要な領域であるが、さらに、既存のアクティブエイジング指標で採用されている子や孫の世話もこの領域に組み込んだ。

改訂版 HAAI 第 5 領域の Capacity and Enabling Environment は、2017 年版では特に領域として設けられていなかったが、国連高齢化に関するマドリッド国際行動計画 (MIPAA) においても一つの領域とされていることを踏まえ、一つの領域とした。この中には、ICT/インターネットのアクセス・利用、公共交通機関のアクセス、生涯教育/識字、暴力被害、といった幅広い項目を含むものであるが、この領域の指標は生涯学習を除きすべてが SDG 指標として取り上げられているものである。

改訂 HAAI 第 6 領域は新型コロナウイルス感染症関連とした。当然この領域は 2017 年版には

含まれていないが、ウイズ・コロナが続く現在、高齢化指標を考えるうえで、新型コロナウイルス感染症の影響は必ず検討する必要がある、領域を設定した。しかしながら、具体的な指標の在り方については、今後の検討が必要である。

2. 指標の選定・算定における留意点

a. SDG 指標について

別表 1 に示すように、特に第 2、第 5 領域で、SDG 指標を多く採用した。これは、SDG 指標であれば、各国政府がデータ収集することになっているため、データが得やすいことを想定してのことであったが、現時点での国連 SDG 指標データベース (UN 2022) には、これらの SDG 指標で、高齢者に特化して (disaggregate して) 記載されているものはなかった。今後各国で高齢者に特化して指標の値が公表されるかは未知数である。また、SDG 指標といっても、例えば Proportion of the older people living in households with access to basic services (SDG1.4.1) のように、別の指標の複合指標となっていて算定が複雑なものは、国連で年齢別に指標の値が提示されない限り、利用は難しいと考えられた。

b. 世帯か個人か

指標によっては、高齢者個人を対象にしているのか、高齢者を含む世帯を対象にしているのか、区別が難しい、もしくはデータが得られないことがある。例えば貧困率やインターネットアクセスは世帯単位で聞いている調査であれば、高齢者が独居なのか、若い家族と住んでいるのかで値が変化

する。

c. 政策と統計

高齢者に対する政策の有無や、その統計の有無は、0/1 で数値化をして、その合計を得点とする形にした。しかしながら、必ずしも 0/1 で判断しにくいものは、0.5 等の値も利用している。例えば、1-E 人口動態統計の有無は出生死亡統計があっても、死因統計がなければ 0.5 とする、などと設定した。

d. 雇用

高齢者の雇用は、特にアジアの文脈では年金をはじめとする社会保障制度が整備されていないので働かざるを得ない、という状況もあり、働いている高齢者が多ければアクティブである、という訳ではない。実際に、教育水準が低い高齢者ほど、収入を確保するために就労を続ける傾向にあるというインドネシアでの調査結果も報告されている (Utomo et al. 2018)。また、高齢者が働くのは子供たちが十分に親を扶養しておらず、恥になる、という文化規範がある国もある。ILO は高齢者が働かざるを得ない状況は改善するべきとしている。一方、働くことで経済的自立、社会参加が実現できる、ということもある。SDGs では人間的な雇用 (decent work) がゴールの一つであり、働く意志のある高齢者が満足して働けるようにすることは、社会参加という意味でも、経済的な充実という面でも重要である。

e. 貧困 (Poverty)

貧困の測り方には、大きく分けて「絶対的貧困」と「相対的貧困」を基準にする二

つの方法がある。前者は、それぞれの社会で最低限の生活を送るために必要なコストを算出したうえで、それに基づいて各国政府が設定する貧困線 (national poverty line) 未満の収入で生活する人口の割合によって示される。また、国によっては、国内の地域ごとに貧困線を設定するケースも少なくない。例えばインドネシアでは、中央統計庁 (BPS) が毎年実施する大規模標本調査である全国社会経済調査 (SUSENAS) の結果に基づいて、国内 67 の地域ごとに設定した貧困線を更新している。国際的な「絶対的貧困」ラインとしては、世界銀行による「一日 1.9 ドル未満」という基準 (2015 年にそれまでの一日 1.25 ドルから改訂) が、最もよく用いられる (World Bank 2016)。

一方、「相対的貧困」は、世帯収入が中央値の 50% 未満の水準で生活する人の割合によって示される。世帯収入については、世帯の可処分所得を世帯員数の平方根で除して世帯規模を標準化した等価可処分所得 (equivalised disposable income) を用いる方法が OECD にも採用されるなど、先進国において比較的重視される指標である。「絶対的貧困」が最低限の生活水準を基準にした欠乏状態を示すのに対して、「相対的貧困」は国内の所得分布の状況を測るという側面もある (OECD 2005)。

f. 障害・日常生活活動 (ADL)

障害や日常生活活動 (ADL) の状況に関する計測は、国や調査によって異なる。Asian Active Ageing Index (AAI) の対象となった国のうち、インドネシアについては「着替え」「入浴」「起き上がり」「食事 (用意さ

れたものを食べる)」「排泄」のいずれも「困難を伴わない」(自力でできる) 人の割合、タイについては「着替え」「洗面・洗顔」「入浴」「食事」のいずれも「困難を伴わない (自力でできる)」人の割合を計測している (Asghar and Um 2019)。計測に用いる項目は、それぞれの国に関して利用可能な調査データの内容に依存するため、国ごとに若干異なる。

障害指標としては、国際的に用いられている指標としてワシントングループによるもの、欧州統計局によるもの (GALI) などがあり (野村総合研究所 2020)、それらは各国で使われるようになっており、その値が得られる国であれば、国際比較も可能となる。

身体機能の低下や日常生活活動の困難は高齢になるほど進むために、これらに関する指標は人口構造 (年齢構成) の影響を受けやすく、60 歳以上や 65 歳以上の高齢人口を対象とする場合でも、さらに高齢化が進んでいる国や地域において、「困難」を抱える人の割合が高くなる。したがって、「75 歳以上」を対象とする指標など、より詳細な年齢区分による指標を作成したり、標準化によって年齢構造の違いによる影響を取り除いた指標を用いることも検討する必要があると考えられる。

g. 認知症の割合

現時点では認知症の割合は、日本についてのみ収集したが、今後各国の認知症割合と比べると、超高齢者が多い日本は認知症の割合が高くなることが想定される。本来比較すべき内容は、認知症の高齢者がどれ

だけいるか、ということよりは、認知症の高齢者が必要なケアを受けているか、家族・介護者や社会の負担はどうかなどという点で評価すべきであり、認知症が広く社会に認知されていないければ、また、認知症を発症する前に別の死因でなくなる高齢者が多い社会であれば、当然認知症の割合は低くなるだろう。認知症に対するケアへのアクセス、という意味では、認知症の割合が高い方がケアへのアクセスが高い（認知症が認知されている）という証左であるとするれば、認知症割合が高い方がよい、ということになる。今後、各国の値を比較し、解釈を検討する必要がある。またこの論点は、障害率についても当てはまる。

h. 運動習慣 (physical exercise)

運動習慣は、高齢期における健康を維持したり、身体機能の低下や不意のケガを未然に防ぐうえで有用である (Asghar and Um 2019)。ただし、上記の障害・日常生活活動 (ADL) と同様に、それぞれの国に関して利用可能な調査データによって、計測に用いる項目が大きく異なる。

i. 社会活動への参加 (Engagement of social activities)

高齢期の社会参加に関わるアジア特有の傾向として、女性の方が男性よりも積極的であることが調査結果などから確認される (※昨年度報告書より)。現役時代の強い男女分業意識—男性が外で仕事をし女性が家事に従事する—が、引退後も社会参加に関する男女差の一因になっている可能性がある。

j. 子や孫の世話 (Care to children and grandchildren)

子や孫の世話は、高齢者の社会参加の一側面として捉えることができる (Asghar and Um 2019)。一方で、高齢者については、家族への世話や支援を提供するだけではなく、加齢に伴う身体的な変化や機能低下によってサポートを受ける対象になりうる点についても留意する必要がある。そして、家族間の支援関係は、親子同居や多世代同居といった世帯構造、さらにはケアをめぐる社会的規範や諸制度と関連するという側面もある。例えば、欧州における成人子と親の居住関係に関する国際比較研究では、親子間の居住関係や居住距離が、成人子の兄弟・姉妹数や構成だけではなく、各国の高齢者支援施策によっても異なることが指摘されている (Rainer and Siedler 2012)。アジアでは、育児や介護といったケアの提供が、伝統的に同居家族を中心とする親族資源に依存する傾向が強かったが、近年の急速な高齢化や少子化の進行の中で、各国の政策的対応にも違いがみられる (落合 2013)。高齢者による子や孫の世話といった世代間の支援に関する指標の評価に際しては、これらの制度的要因や背景についても考慮する必要がある。

k. 公共交通機関へのアクセス (Access to public transport)

公共交通機関へのアクセス状況およびその影響は、都市部に居住するか農村部に居住するかによって大きく異なる。また、公共交通機関が整備されていない環境でも、

車を運転する家族と同居していたり、日常的に手助けをしてくれる親族や知人が近くにいと、外出などへの支障はそれほど大きくないが、それ以外の場合には、日常的な活動範囲が大きく制限される可能性がある。

1. 孤独と孤立 (Loneliness/Isolation)

高齢社会にあって退職後に人との関わりや役割を持てなくなることで孤独・孤立に陥る高齢者が増加することが課題である。孤独は主観的な感情、孤立は客観的な状況であり、区別されるが、いずれも高齢者では健康や生活に及ぼす影響が大きい。さらに、新型コロナウイルス感染症流行の長期化により高齢者の社会的孤立はますます深刻な課題となっている。東南アジア諸国では厳しいロックダウンの実施など国により影響の度合いに違いがある可能性もある。

孤独・孤立は、社会的な影響のみならず、健康への影響も実証されており (Cacioppo 2018)、英国、ドイツ、日本等 G7 諸国では政府として対策に取り組んでおり、日本では内閣府に孤立孤独対策室が 2021 年に設立され、全国調査も実施された。そのような中、国際的に比較可能な孤独の指標が 1 問形式と 3 問形式で、それぞれ広く使われるようになっている。

3. 算定方法の設定

複数の指標 (indicator) を指数 (Index) に集約する形式は、人間開発指標等で広く用いられているもので、改訂版 HAAI の先行指標である New Asian Active Ageing Index 等でも用いられている。国によりすべての指

標が均一的に得られないことを鑑みて、改訂版 HAAI では、ある指標値が、少なくとも、2 カ国で得られれば、その偏差値を計算し、指数の計算に組み入れる、という手法を用いることとした。得られた指標毎の偏差値は、多い数値がよい数値となるように方向を揃えたうえで、領域別に平均値を算出することとした (別表 2)。

国別領域別の値は、レーダーチャートとして視覚化される。今年度指標の収集を試みた日本、インドネシア、タイ、ミャンマーについて、作成したレーダーチャートを図 1 に示した。

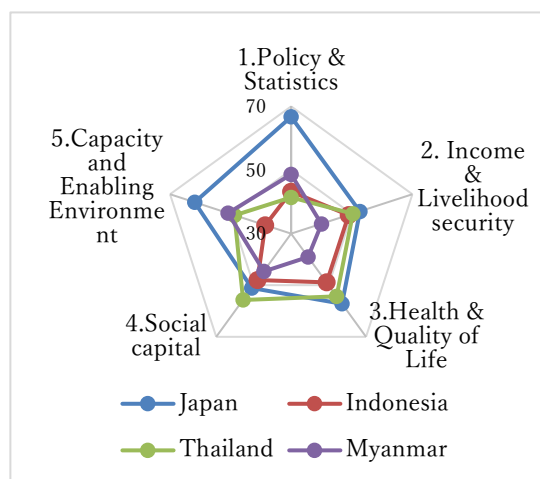


図 1 改訂版 HAAI レーダーチャート

D. 考察

先行研究が示している通り、アジアにおける改訂版 HAAI 算定は、統一した定義のデータが得にくいことが大きな問題である。すべての指標を揃えることは不可能であるため、国により指標なしの項目を許容するような今回設定した算定手法は完全ではないものの、必要な手法である。

国連健康な高齢化の 10 年行動計画で示

されているように、SDG 指標を用いることで、より統一した指標が得られることが期待されたが、現段階では国連データベースにも高齢者に特化した値は公表されていない。また計算が煩雑な SDG 指標も少なからずあり、今後取捨選択が必要になると考えられる。

E. 結論

今年度は HAAI の改訂を試みたが、6 領域 45 指標の所在の有無のみならず、同種の指標でも微妙な定義の差があり、また社会・文化的な背景による解釈など、数字の裏側にある事情をより詳しく把握する必要がある。また、各指標がどこにあり、どのように定義され計測されているのか把握すること自体が高齢者施策の充実につながるのではないかと考えられる。そのため、来年度（令和 4 年度）は、アジア各国の専門家との国別検討チームを立ち上げ、国別の指標を吟味することとする。

<参考文献>

Cacioppo, John T; Stephanie Cacioppo (2018) “The growing problem of loneliness”, *Lancet*, 391(10119):426. doi: 10.1016/S0140-6736(18)30142-9.

HelpAge International (2015) *Global AgeWatch Index 2015 Insight report*
<https://www.helpage.org/global-agewatch/reports/global-agewatch-index-2015-insight-report-summary-and-methodology/>

OECD (2005) “Equity Indicators”, in *Society at a Glance 2005: OECD Social Indicators*,

Paris: OECD Publishing.

Rainer, H. and Siedler, T. (2021) “Family Location and Caregiving Patterns from an International Perspective”, *Population and Development Review*, Vol.38, No.2, pp.337-351.

UN/DESA(2022) *SDG Indicators Database*,
<https://unstats.un.org/sdgs/unsdg>.

Utomo, A., McDonald, P., Utomo, I., Cahyadi, N. and Sparrow, R, (2019) “Social Engagement and the Elderly in Rural Indonesia”, *Social Science & Medicine* 224, pp.22-31.

WHO (2020) *Decade of Healthy Ageing: Plan of Action*.

World Bank (2016) *Poverty and Shared Prosperity 2016: Taking on Inequality*, Washington DC: World Bank.

Zaidi, Asghar and Jinpil Um (2019a) “The Asian Active Ageing Index: Results for Indonesia and Thailand” *Social Development Working Papers*, 2019/05, United Nations ESCAP.

Zaidi, Asghar and Jinpil Um (2019b) “The New Asian Active Ageing Index for ASEAN+3” *Journal of Asian Sociology*, Vol. 48, No. 4 (December 2019), pp. 523-558.

落合恵美子 (2013) 「ケアダイヤモンドと福祉レジーム—東アジア・東南アジア 6 社会の比較研究」落合恵美子編『親密圏と公共圏の再編成—アジア近代からの問い』京都大学学術出版会, pp.177-200.

佐々木由理、曾根智史、林玲子、荒井秀典、菖蒲川由郷、中川雅貴(2021) 「ASEAN-Japan Healthy & Active Ageing Indicators 2017 と既存の Healthy & Active Ageing Indicators の比較、検証に関する研究」

「ASEAN における活動的で健康的な高齢期の推進に関する研究」(20BA2002) 令和2年度 総括・分担研究報告書、pp.9-13
菖蒲川由郷 (2021) 「ミャンマーとマレーシアのフィールド調査」 「ASEAN における活動的で健康的な高齢期の推進に関する研究」(20BA2002) 令和2年度 総括・分担研究報告書、pp.171-175.

野村総合研究所(2020) 『令和元年度障害者統計の充実に係る調査研究事業報告書』
<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/r01toukei/index-w.html>.

林玲子、中川雅貴 (2021) 「高齢化指標の現状と論点」 「ASEAN における活動的で健康的な高齢期の推進に関する研究」
(20BA2002) 令和2年度 総括・分担研究報告書、pp.106-170.

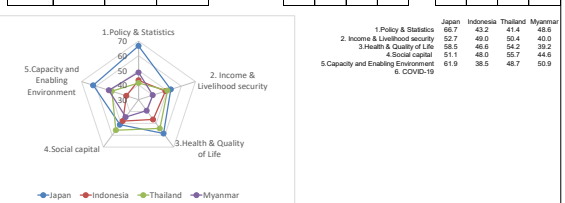
別表 3 改訂版 HAAI (Healthy and Active Ageing Index)

領域	指標	SDG 指標
1.Policy & Statistics (9 指標)		
	A) Policy-Multisectoral healthy and active ageing : yes/no	
	B) Policy-Health care (including NCD) : yes/no	
	C) Policy-Long-term care system : yes/no	
	D) Statistics-Older population proportion and distribution : yes/no data	
	E) Statistics-Vital statistics (including leading cause of death)	
	F) Statistics-Health/living conditions of the older people (Living alone etc)	
	G) Statistics-Estimation of health care expenditure for older persons : yes/no data	
	H) Statistics-Number of health and long-term care workers : yes/no data	
	I) Statistics- Capacity of nursing homes : yes/no data	
2. Income & Livelihood Security (7 指標)		
	A) Poverty Rate of the older people (Proportion of population living below the national poverty line)	1.2.1
	B) Proportion of the older people living at < 50% of median income	10.2.1
	C) Proportion of older people with an account at a bank or other financial institution or with a mobile money-service provider	8.10.2
	D) Prevalence of moderate or severe food insecurity in older people	2.1.2
	E) Employment rate among the older people, presence of system to encourage employment of the older people/post retirement (unemployment rate)	8.5.2
	F) Rate of the older people among population who are covered by the income security including public pension/older welfare benefits	1.3.1
	G) Home ownership	1.4.2
3.Health & Quality of Life (10 指標)		
	A) Life Expectancy at age 60	
	B) Healthy life expectancy at age 60	
	C) NCD mortality	3.4.1
	D) Suicide mortality rate among the older people	3.4.2
	E) Disability/(i)ADLs	
	F) Rate of Dementia	
	G) Subjective sense of well-being/mental well-being/self-rated health	
	H) Rate of receiving nursing care when necessary (formal/informal)	
	I) Physical exercise/activities	
	J) Loneliness/(Social) Isolation	
4.Social Capital (7 指標)		
	A) Engagement of social activities (community, political & religious activities)	
	B) Frequency of communication/ conversation with family/neighbors	
	C) Rate of the older people who go out more than once a week	
	D) Rate of the older people who have confidence in their neighbors/people in the community	
	E) Proportion of population that feels safe walking alone in the area in which they live, including older people	16.1.4
	F) Care to children and grandchildren (one's own/ other's)	
	G) Care from children and grandchildren	
5.Capacity and Enabling Environment (9 指標)		
	A) Use of ICT (Proportion of the older people skilled in information and communications technology)	4.4.1
	B) Proportion of the older people using the internet	17.8.1

	C) Proportion of the older people living in households with access to basic services	1.4.1
	D) Proportion of rural population who live within 2 km of an all-season road, also distinguishing older people	9.1.1
	E) Access to public transport	11.2.1
	F) Average proportion of the built-up area of cities that is for public use, by sex, age (including older people) and people with disabilities	11.7.1
	G) Retraining for age 55-64/lifelong learning	
	H) Proportion of the older people who have achieved at least a fixed level of functional literacy and numeracy	4.6.1
	I) Proportion of population subjected to physical, psychological, financial or sexual violence in the previous 12 months, including older people	16.1.3
6. COVID-19 (3 指標)		
	A) % deaths of the older people with COVID-19	
	B) % cases of the older people with COVID-19	
	C) Vaccine coverage	

別表 4 HAAI算定シート(ドラフト)

Domain	Indicator	SDGs indicator	Japan			Indonesia			Thailand			Myanmar			HAAI Score								
			Value	Source	Note	Value	Source	Note	Value	Source	Note	Value	Source	Note	Average	STDEV	Japan	Indonesia	Thailand	Myanmar			
1.Policy & Statistics	Policy	Multidimensional healthy and active ageing - yes/no	1			?			?			?											
	Policy	Health care (including NCD) - yes/no	1			?			?			?											
	Policy	Long-term care system - yes/no	1			0			?			0											
	Statistics	Older population proportion and distribution - yes/no data	1			1			1			1											
	Statistics	Vital statistics (including leading cause of death)	1			0.5			?			0											
	Statistics	Healthliving conditions of the older people (Living alone etc)	1			1			1			1											
	Statistics	Estimation of health care expenditure for older persons - yes/no data	1			?			?			?											
	Statistics	Number of health and long-term care workers - yes/no data	-			1			?			?											
	Statistics	Capacity of nursing homes - yes/no data	-			1			0			1											
	Statistics		9			2.5			2			4											
	2.Income & Livelihood security	Poverty Rate of the older people (Proportion of population living below the national poverty line)	1.2.1	-	no data				11.1%	SUSENAS	National poverty line defined by BPS, and established in 2008	10.9		10.9	SDG-Economic Surveys, NSD	Household income is available (2020)							
Proportion of the older people living at <50% of median income		10.2.1	19.6%	average of 22.3% for men, 16.3% for men, 25% for women	Relative poverty rate (65+)	29.5%		FLS (AAAI 3.5), 65+		28.0%		28.0%		AgriWatch 2015 (data from IWB) (AAAI 3.5), 65+	Household income is available (2020)								
Proportion of older people with an account at a bank or other financial institution or with a mobile money-based provider		8.10.2	?			?			?			?		?	NA	Only adult data are available (above is available)							
Prevalence of moderate or severe food insecurity in older people		2.1.2	5%	2017年厚生労働省の調査	貧困状態にある高齢者の割合	?			?			?		?	18.0%	Survey	Around 18% every time they would run out of food around 22.3% are employed						
Employment rate among the older people (proportion of open to encourage employment of the older population)		8.5.2	22.5%	2015 Census	就業率	39.5%		FLS (AAAI 1.3), 65+	Worked for at least one hour last week to earn money	25.7%		25.7%		EO (AAAI 1.3), 65+	Worked for at least one hour last week to earn money	Employment rate among the older people (above is available)							
Rate of the older people among population who are covered by the income security including public social insurance benefits (Home ownership)		1.3.1	85.9%	Comprehensive Survey of Living Conditions, Household	年金受給率	10.1%		SUSENAS	% covered by pension insurance	91%		91%		?	?	NA	Old Age Allowance program established in 1978	% covered by any kind of pension, allowance					
Life Expectancy at age 60		3. Health & Quality of Life	3.6.1	84%	2015 Census	Living in house owned by household, 65+	84.8%		FLS (AAAI 3.6), 65+	92.2%		92.2%		HART 2015 (AAAI 3.6), 65+	92.1%		92.1%						
Healthy life expectancy at age 60		3.6.2	26.4	WHO Global Health Observatory	Both sex, Years, 2019	17.94			WHO Global Health Observatory	Both sex, Years, 2019	23.57		23.57		WHO Global Health Observatory	Both sex, Years, 2019	18.06		18.06				
NCD mortality		3.4.1	8.3	GIN SGDR database, 2019		24.8			WHO Global Health Observatory	Both sex, Years, 2019	17.96		17.96		WHO Global Health Observatory	Both sex, Years, 2019	13.59		13.59				
Disability(PADs)		3.4.2	17.6	2019年人口動態統計	65+人口の7.2%	NA																	
Rate of Dementia			2.1%	2016年厚生労働省調査	65+	?																	
Subjective sense of well-being/mental well-being/rated health		26.7%	2019年国民生活意識調査	21+手あそびの励み	62.4%			FLS (AAAI 4.1), 65+	62.4%		62.4%		HART 2015 (AAAI 4.1), 65+	61.4%		61.4%		25.5%					
Rate of receiving nursing care when necessary (formal/informal)		61.9%	2019年国民生活意識調査	要介護が必要な高齢者の割合	NA																		
Physical exercise/activities		45.8%	2019年国民生活意識調査	毎週15分以上身体活動を行った人の割合	34.4%			FLS (AAAI 3.1), 65+	34.4%		34.4%		HART 2015 (AAAI 3.1), 65+	30%		30%		70.8%					
Loneliness(Social) Isolation		2.7%	2019年国民生活意識調査	一人暮らし、一人暮らしで一人で生活している人の割合	?																		
Engagement of social activities (community, political & religious activities)		25.3%	2019年国民生活意識調査	何かしら社会活動に参加している人の割合	55.4%			FLS (AAAI 2.4), 65+	55.4%		55.4%		HART 2015 (AAAI 2.4), 65+	48.1%		48.1%		13.3%					
Frequency of communication/conversation with family/friends		84.4%	2019年国民生活意識調査	家族や友人と話し合ったことがある人の割合	56.7%			FLS (AAAI 4.5), 65+	56.7%		56.7%		HART 2015 (AAAI 4.5), 65+	67.7%		67.7%		83.2%					
Rate of the older people who go out more than once a week		?	?	?	?																		
Rate of the older people who have confidence in their neighbors/people in the community		?	?	?	?																		
Proportion of population that feels safe walking alone in the area in which they live, including older people (one's own district)		16.14	(84.8%)	2019年国民生活意識調査	近所をひとりで歩けると思う人の割合	89.6%		FLS (AAAI 4.6), 65+	89.6%		89.6%		?	80.7%		80.7%							
Care for children and grandchildren		?	?	?	?																		
Use of ICT (Proportion of the older people skilled in information and communications technology)		4.4.1	21.3%	2019年国民生活意識調査	スマートフォンやタブレット端末を使いこなしている人の割合	5.2%		FLS (AAAI 4.7), 65+	5.2%		5.2%		8.4%										
Proportion of the older people using the internet		17.8%	?	?	?																		
Proportion of the older people living in households with access to basic services		14.1	?	?	?																		
Proportion of rural population who live within 2 km of an all-season road also distinguishing older people		9.1.1	?	?	?																		
Access to public transport		11.2.1	?	?	?																		
Average proportion of the built-up area of cities that is for public use, by sex, age (including older people) and people with disabilities		11.1.1	?	?	?																		
Remaining for age 55-64 lifelong learning		?	?	?	?																		
Proportion of the older people who have achieved at least a third level of functional literacy and numeracy		4.6.1	99.8%	2010年国民生活意識調査	読字で最低でも3級以上の機能性 literacy を持っている人の割合	67.3%		Literacy, Census 2010 (PUMS), 60+	67.3%		67.3%		74.6%										
Proportion of population subjected to physical, psychological, financial or sexual violence in the previous 12 months, including older people		16.1.3	0.3%	2019年国民生活意識調査	過去12か月以内に身体的、精神的、経済的、性的暴力を受けた人の割合	?																	
% COVID-19			94%	厚生労働省発表	2022年2月までの累積感染率	?																	
% cases of the older people with COVID-19		14%	厚生労働省発表	2022年2月までの累積感染率	?																		
Vaccine coverage		94%	厚生労働省発表	2022年2月までの累積感染率	?																		



別表 5 2017 年版 HAAI (ASEAN Healthy & Active Aging Indicators)

1. National/Local Government Policy
A) Multi-sectorial aging policy/frame
B) Policies for addressing active aging and its implementation
2. Income Security
A) Rate of the elderlies among population who are covered by the income security including public pension/elderly welfare benefits
B) Poverty Rate of the elderly
3. Social Capital of the Community
A) Employment rate among the elderly, presence of system to encourage employment of the elderly/post retirement
B) Rate of the elderlies who are engaged in volunteer activities including elderly club
C) Frequency of communication/conversation with family/ neighbors
D) Rate of the elderlies who go out more than XX days per week.
E) Rate of the elderlies' confidence in their neighbors/people in the community
4. Health and Long-term care service
A) Type, Subject and Role of Health and medical welfare services and Accessibility
B) Type and Role of the health care workers and their training
C) List of policies to address NCDs
D) Financial sustainability of the services
E) Type of care givers (home or facility)
F) Support system of home care (Engagement of hospital professionals in the community care and supports for informal care givers)
G) Number of facilities for the Elderly in need of care
5. Health Outcome
A) Healthy life expectancy/Life Expectancy at age 60(65).
B) Subjective sense of well-being
C) Rate of the elderly with disability (those who need support/assistance in daily activities, dementia)
D) Rate of the elderly who decease at home.
E) Health Disparity. (e.g. difference of life expectancy by areas, occupation and educational background)
6. Development of Social Statistics
A) Data of the elderly proportion/distribution
B) Data of the health s/living conditions of the elderly
C) Development of vital statistics (including leading cause of death)
D) Estimation of health care expenditure